

# めざすは「思考力、判断力、表現力」の育成！

## ～BLUE MARBLEの挑戦～

加賀田 哲也

### ◆これからの時代に求められる資質や能力

目下、世界中が新型コロナウイルス感染症をはじめ、これまで予想だにできなかった様々な未曾有の課題に直面している。ここで必要となるのが、これらの課題を解決していくための資質・能力である。

今回の学習指導要領では、とりわけ「思考力、判断力、表現力」の育成が強調されているように感じられるが、これはまさにグローバル社会における今日的課題を解決するのに我々が身に付けるべき資質・能力そのものである。したがって、授業では、いかに学習者が自身の考えを広げ、深め、創造し、発信できるかが真に問われることになる。そこには見通しを持って粘り強く学習に取り組み、自己調整していこうとする、主体的に学習に取り組む態度の育成も求められる。

### ◆BLUE MARBLE English Communicationの挑戦

今回、筆者が編集に携わった上記図書(以下、*BM*)は、上述した資質・能力の育成に真っ向から向き合い、さまざまな言語活動を通して、4技能5領域の総合的な育成をめざしている。

教科書では、ソーシャルメディアに関する話題(友だち作り、フェイクニュース)、ルワンダの大虐殺を生き延びた女性の半生、野生動物の観察手法であるバイオロギング、講談や禅の精神など、メディア社会、教育・平和、生物・科学、日本文化といった幅広いジャンルの題材を扱っている。このような内容豊かな題材は、生徒一人ひとりが自身の人生観、社会観、文化観、言語観を(再)構築していくためのきっかけとなるであろう。

さて、外国語学習の成否においては、「曖昧への耐性」が極めて重要な要素となる。つまり、英文の量に圧倒されることなく、理解できない部分があったとしても粘り強くかわり、まずは概要把握ができるかどうか問われることになる。そこで*BM*では、各レッスンのはじめに全パートの英文を一気

に読み概要を把握する。時間を計りながら読ませると、速読の練習にもなる。その後、パートごとに精読する構成になっている。つまり、同一の英文に何度も触れることで、発信するのに必要な知識・技能の習得に加え、英文を用いたさまざまな活動を通して、論理的、批判的な思考力、そして判断力、表現力の育成にもつながる。ひいては昨今の大学入試問題に見られる英文の長文化にも十分対応できる力が涵養できよう。

また、各パートには、本文の内容理解に加え、図表を用いて本文の論理展開を確認したり、写真やイラストを見て本文の内容を自分の言葉で再生したりする活動、本文に関連したトピックについて話し合う活動などがある。さらに、課末では、レッスン全体のリテリング活動を行ったり、本文に関連した別素材でのリスニング・表現活動を行うことができる。発音スキル、読解スキル、文法事項の学習に特化したLANGUAGE FOCUSという差し込みレッスンもある。

殊に、音声面の学習では、紙面に掲載されたQRコードから、本文の新出語句の音声聞く、本文や新出語句の発音や流暢さを判定する、本文を読む速さを確認することが可能であり、生徒が授業外でも英語の音声について学習する機会を提供している。

今後、ますます予測不可能な社会に直面するであろう生徒たちに、*BM*は「考えることの楽しさ」、「表現することの喜び」を実感させることとなる。多様な意見や考えを受け入れつつも、状況に応じて様々な思考スキルを選択、活用しながら、自身の意見や考えをしっかりと表現したり、伝え合ったりできる生徒を育成したいものである。

(大阪教育大学 教授)

*BLUE MARBLE English Communication*

代表著者